

平成29年度 ミニトマト防除暦

平成29年3月 日現在の農薬登録内容に基づき作成

作成：JAIいわて花巻・中央農業改良普及センター地域普及G

散布時期	発生消長・薬剤効果							殺菌剤・殺虫剤の別	殺虫剤の系統名 合：合成ピレスロイド系 ネ：ネオニコチノイド系 他：その他系統	殺菌剤の作用 予：予防剤 治：治療剤	薬剤名	希釈倍数	使用回数 防除暦での 使用回数/ 総使用回数	備考、重点防除病害虫等
	重点防除時期													
	発生時期	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	オオタバコガ	その他	その他							
定植時					◎	○			虫	ネ	アドマイヤー1粒剤	1g/株	1/①	【コナジラミ類】常発圃場ではラノーテープ(10~50m ² /10a、栽培期間中、1回、作物体の付近に設置する)も有効。
5月下旬	○	○	○	○	◎	○			病	予	ダコニール1000	1,000倍	1/②	
6月上旬									虫	他	チェス顆粒水和剤	5,000倍	1/③	
6月中旬	◎	○	(○)	(○)	◎	◎	○		病	治	ベルコート水和剤	6,000倍	1/②	【各病害共通】下葉整理は遅れないように実施し、適宜換気を行ってハウス内を風通しよく保つこと。
6月下旬	◎	◎	(○)						虫	ネ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	1/③	
7月上旬	◎		○						病	治	ゲッター水和剤	1,500倍	1/③	【斑点病】梅雨期の防除を徹底し、多発させないこと。
7月中旬	◎	◎	○	◎					病	治	ロブラール水和剤	1,000倍	1/③	
7月下旬	◎	◎	(○)		(◎)	(◎)	△		虫	合	アーデント水和剤	1,000倍	1/②	【オオタバコガ】発生時、フェニックス顆粒水和剤を特別散布。 ※果実への食入前に防除を実施すること。4mm目以下の防虫ネット展開も有効。
8月上旬	◎		○		◎	◎	○		病	治	ゲッター水和剤	1,500倍	2/③	
8月中旬	◎	◎	(○)	(○)					虫	他	ウララDF	2,000倍	1/③	
8月下旬	◎	◎	(○)	(○)					病	治	ロブラール水和剤	1,000倍	2/③	【斑点病】気温が低下するお盆ころから増加するので注意すること。
9月上旬	◎	◎	(○)	(○)					虫	ネ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	2/③	【コナジラミ類】発生時、チェス顆粒水和剤を特別散布。
9月中旬	◎	◎	(○)						病	予・治	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000倍	1/③	
9月下旬	◎		○						虫	他	プレオフロアブル	1,000倍	1/②	【オオタバコガ】#：発生時、ディアナSCを特別散布。
					◎	◎	○		病	治	ベルコート水和剤	6,000倍	2/②	
									虫	他	(ディアナSC)#	5,000倍	1/②	
									病	予・治	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000倍	2/③	
									虫	ネ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	3/③	
									病	治	ゲッター水和剤	1,500倍	3/③	
									虫	他	ディアナSC	5,000倍	2/②	
									病	治	ロブラール水和剤	1,000倍	3/③	
					◎	◎	◎*		虫	他	ウララDF	2,000倍	2/③	

昨年度発生が見られた病害虫

【うどんこ病】
 ・昨年は、6月頃から秋まで継続して発生がみられ、多発した。発生時はカリグリーン(800倍)を散布。
 ・葉かび病・すすかび病と間違えないよう注意すること。

【トマトサビダニ・ハダニ類】
 ・サビダニ類・ハダニ類とも近年増加傾向となっている。発生時はマイトコーネフロアブル(1,000倍)、コロマイト乳剤(1,500倍)等を散布。
 ・ダニ類に効果がある殺虫剤は限られるため、薬剤選択に注意すること。

H28防除暦との主な変更点および使用方法が変更になった農薬

- 1. 様式変更**
 ・防除暦とあわせて病害虫発生時期・薬剤の効果も確認できる様式に変更。
- 2. ハチハチ乳剤の削除**
 ・H28年度では5月下旬および7月中旬に組み込んでいた「ハチハチ乳剤」を削除し、チェス顆粒水和剤とウララDFに変更。
 ※短期曝露評価により、ミニトマト・トマトで登録削除(使用できなくなる)の見通しのため。
- 3. ダコニール1000の登録内容変更**
 ・「収穫7日前まで」→「収穫前日まで」に変更。

・防除暦に掲載の農薬の使用時期はすべて「収穫前日まで」。
 ・効果表の記号は、◎：効果が優れる、○：有効、△：劣る、()：当該病害虫に適用なしを示す。
 ・*：ミカンキイロアザミウマで適用あり。

★農薬の安全性評価の見直しにより、今後、農薬の使用方法が変更となる場合がありますので、使用時は指導機関、農薬販売店、「いわてアグリベンチャーネット(<http://i-agri.net/agri/>)」等で最新情報を確認し、使用者が責任を持って、適正かつ安全に使用してください。

